



【はじめに】

十勝西部森林管理署は、十勝平野の西部に位置し、十勝流域1市5町2村に広がる約14万haの国有林を管理経営しています。管理面積のうち、約35%（約4.9万ha）が日高山脈襟裳十勝国立公園に指定されており、十勝平野の広大な田園風景と雄大な山岳景観のコントラストが特徴的です。

【地域課題】

管内の人工林は、その多くが森林資源として利用できる時期を迎え、伐採後の再造林の増加が見込まれます。伐採後の再造林を確実に進めていくためには、初期投資や労働力の確保が必要であり、伐採と再造林を安全かつ効率的に行うための機械作業によるコスト削減及び作業労力の軽減が地域の大きな課題となっています。

【課題解決に向けた取組】

「保育作業の負担軽減と低コスト化を図る」ことを目標とし、造林作業での機械化を進めるため、大型機械（バックホウ・ブルドーザー）での地拵と成長が早いクリーンラッチコンテナ苗による、低密度植栽（2,000本/ha・1,500本/ha、1,000本/ha）の試験地を設定しました。



各試験地内には、それぞれ50本のプロットを設定し、植栽木の苗長・根元径の計測、獣害・枯損状況の確認、下層植生高や繁茂状況の計測や定点撮影を行い、天然更新した稚樹の樹種・本数のほか、大型機械での地拵によって懸念される土砂の流出状況についても調査を行っています。



また、当署において実施した素材生産と造林の一貫作業による経費削減や、下刈作業（人力下刈・機械下刈・無下刈）の経費削減などを検証しつつ、情報発信することにより、造林作業の省略化や省力化への理解を深めてもらえればと考えています。

【今後の取組】

深刻な担い手不足が懸念される中、森林資源の循環利用を維持していくためには、造林作業の省力化・軽労化は避けては通れない課題であると認識しています。一貫作業、コンテナ苗の活用及び低密度植栽や林地未利用材の利用についても模索していければと考えています。

今後もこうした取組を地域の林業関係者と一丸となって推進して行きたいと思っています。